

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5 年計画の 4 年目)

1. 研究課題

漢籍リポジトリの基礎的研究

Fundamental Research of the Kanseki Repository

2. 研究代表者氏名

ウィッテルン クリステイアン

Christian WITTERN

3. 研究期間

2016 年 04 月 - 2021 年 03 月 (4 年度目)

4. 研究目的

平成 25 年 4 月から平成 28 年 3 月開催された研究班「人文情報学の基礎研究」では文献学的な手法に基づいた漢籍電子テキストの集合である漢籍リポジトリ(www.kanripo.org)の構築に取り組み、初歩的な形で公開ができた。しかし、テキスト集合の完成度または各テキストの適切な記述などにまた課題が残された新研究班は引き続き漢籍リポジトリの基本的な整理と研究が行う予定だ。利用者の立場からも漢籍リポジトリの全体に関わる研究または特定な研究課題に絞った研究を支援するや、個人研究者や研究者グループに行う漢籍の解読を支援するツールの研究・開発も計画されている。それ以外には現時点で特に課題になると思われるのは、複数の版からなる批判校訂版の作成と画面上の表示や印刷様の組版のワークフローの検討や、漢籍リポジトリ全体の文字使用とその規範、正字と異体字の対応などを検討するが、具体的な課題とその進め方は班員の関心に沿ってきめる。

The research seminar “Fundamental Topics in Digital Humanities” held from April 2013 to March 2016 produced as one of its results a first preliminary release of a comprehensive repository of premodern Chinese texts based on clear philological principles called “Kanseki Repository” (www.kanripo.org). However, due to the limited time, only a very rough draft could be produced and some important texts are still missing. This seminar will follow up on these results by improving the scope and descriptive depth of the texts and by developing exemplary methods for using the repository for answering specific research questions. Among these, support for the creation of text-critical editions and a

general survey of the characters used in the Repository are on the agenda, but the actual plan will be developed by the members upon start of the seminar.

5. 本年度の研究実施状況

今年度も国際的なデジタル・ヒューマニティーズの動きを確認しながら漢籍リポジトリの内容を充実させて、利用と利便性を高めるを図った。今年度は特にリポジトリ全体的な分析のためにいくつかの実験を行いました、今回は主に **sentence piece** を使ったモデルを作成して、そうして部類間或いはテキスト間のネットワークを分析しました。

6. 研究成果の概要

なし

7. 本年度の研究実施内容

2019-04-23 前年度のまとめ、漢籍リポジトリの現状とこれからの予定

2019-05-14 Sentence piece

2019-05-28 More sentence piece

2019-06-11 Sentence piece network analysis

2019-06-25 Sentencepiece vs ngram

2019-07-09 Analysis of the text corpus with sentencepiece

2019-10-08 漢籍リポジトリの更新に向けて

2019-11-12 漢籍リポジトリ XML 形式検討

2019-11-26 CTS & Perseus, Text Alignment

2020-01-14 TAN

2020-01-28 Text/Commentary in XML

8. 共同研究会に関連した公表実績

なし

9. 研究班員

所内

安岡孝一、古勝隆一、永田知之、白須 裕之

学内

宮崎 泉(文学研究科)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	6	7 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	24 (0)	24 (0)	12 (0)
学内	1	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
国立大学	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	7	7 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	12 (0)	24 (0)	24 (0)	12 (0)

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数
なし

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

13. 次年度の研究実施計画

次年度は最後の年になりますが、纏めに向けて研究を続けたいと思います。

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

なし